

事業のタネシート

活動地域・団体名：株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック

事業名称：GXプロジェクト「水戸ホーリーホック的地域循環型社会創り」

あらすじ

ホームタウンの大きな地域課題でもある耕作放棄地を活用し、新たな地位循環の事業モデルとしてソーラーシェアリングで電力を作り地域内に循環しながら、パネルの下の圃場で大豆を生産します。生産された大豆は大豆ミートなどの健康的な食品に加工し、地元の子供達や高齢者に提供し、地域の人々の健康増進に働きかけます。新しい事業モデルによる雇用促進による、地域の働き手不足の解消や地域全体の循環型社会への啓蒙にもつなげます。

ストーリー

水戸ホーリーホックはホームタウンの耕作放棄地や農業従事者の高齢化など地域課題に向き合うために2021年に農業事業「GRASS ROOTS FARM」を立ち上げました。そして、ホームタウンのみらいダイアログでの地域のキーパーソンとの対話、大豆ミートバーガーの取り組みのチャレンジアウォーズ受賞、Jリーグとの気候変動アクションの情報交換などをきっかけにソーラーシェアリングによる事業モデルを作り、脱炭素社会を目指す思いも込めてGXプロジェクトと名付けました。多くのステークホルダーと地域に根ざした活動をするクラブだからこそ、地域課題にチャレンジする旗振り役となることで、地域全体の機運を高め、水戸ホーリーホックを取り巻く環境が地域のプラットフォームとしての役割を果たすことを目指しています。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	里山の環境維持、儲かり持続可能な農業生産、新しい雇用の創出、新しい特産品の開発、地域コミュニティ維持、地域内で経済循環をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーラーシェアリングのマイナスイメージ ・ソーラーシェアリングによる生産方法 ・圃場の作業人員 ・条件の合う圃場が見つかるか ・生産、加工、販売の具体的な流れ
②課題	里山の荒廃、農業が続かない可能性、地域内経済循環（農業が儲からない、特産品が少ない）、コミュニティの弱体化、人が減るのに減らない仕事	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	生産人口減少による耕作放棄地の増加とそれともなう里山の荒廃を防ぎ、儲かる農業モデルを作り、生産者を増やす。多くの機関が関わることで新たな地域コミュニティを創出する。	
④地域資源	地域に根ざした活動をする水戸HHの発信力と企業・行政にまたがるステークホルダー 農業県であり生産、加工、農地、地域のキーパーソンが豊富なホームタウンの特性	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	地域の子ども、養護施設、介護施設、パートナー企業に健康的な大豆加工品を提供 官民一体となったソーラーシェアリングの地域循環型モデルを他の地域にも展開する	
⑥担い手（Who）	日本農業実践学園と学生、就農希望の地域おこし協力隊、地域の若者、地域企業、サポーター	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	生産、加工、販売、消費までを地域内でおこなうことによる食材の循環 ソーラーシェアリングで発電した電気を自治体がい取り取ることによるエネルギー循環 企業版ふるさと納税活用による地域内での資金循環 地元や進学した地域近くでの新しい事業モデルによる雇用創出での人の循環 水戸HHが地域循環事業をすることによるインパクトによる新しい事業の種が生まれる循環。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の場所で ・日本農業実践学園 ・食品加工会社 ・ソーラーシェアリング事業者
⑧事業で生じる成果	地域における新しいコミュニティの醸成、地域でのヒト、コト、カネの循環による地域の活性化、プロジェクトのつながりによる新しい事業の種の創出	